

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は神経質な展開が継続か

[6月1日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月25日～5月29日		
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	159.00	159.65(28)	158.74(25)	159.23 +0.05
ユーロ・ドル	1.1631	1.1661(27)	1.1586(28)	1.1652 +0.0049

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	66,329.50	+2990.43	日本10年債利回り	2.664	-0.099
ダウ平均株価	50,668.97	+89.27	米10年債利回り	4.447	-0.111

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 1日 中国5月レイトイングドッグ製造業PMI
スイス第1四半期GDP
独5月製造業PMI確報値
ユーロ圏5月製造業PMI確報値
英5月製造業PMI確報値
ユーロ圏4月雇用統計
米5月製造業PMI確報値
米5月ISM製造業景況指数
米4月建設支出
- 2日 豪第1四半期経常収支
豪4月住宅建設許可件数
ユーロ圏5月消費者物価指数速報値
米4月雇用動態調査(JOLTS)求人数
- 3日 豪第1四半期GDP
独5月サービス業PMI確報値
ユーロ圏5月サービス業PMI確報値
英5月サービス業PMI確報値
植田日銀総裁講演
ユーロ圏4月生産者物価指数
米5月ADP雇用統計
米4月製造業受注
米5月サービス業PMI確報値
米5月ISM非製造業景況指数
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 4日 豪4月貿易収支
スイス5月消費者物価指数
スイス5月雇用統計
ユーロ圏4月小売売上高
米第1四半期非農業部門労働生産性指数
米新規失業保険申請件数
- 5日 日本4月勤労者世帯家計調査
日本4月景気動向指数速報値
ユーロ圏第1四半期GDP
カナダ5月雇用統計
米5月雇用統計
カナダ5月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】原油高を受けての米国でのインフレ圧力の高まりがドルの上昇要因となる一方、160円接近では政府・日銀による介入警戒感が上値を抑える要因となる。こうした中、ドル円は高値圏で一進一退の動きが続くとした。

【ドル円は159円台を中心とするもみ合いが継続】

25日以降のドル円は159円近辺でのもみ合いが続いている。これまでは158円台後半から159円台後半での推移を続けてきたが、足元では米国とイランをめぐる戦闘終結へ向けた報道に振り回されている。160円の節目が視野に入るところでは、政府・日銀による介入への警戒感から上値を抑えられやすくなっている。

28日に米国がイランの軍事施設を攻撃したと報じられたことで、ドル買いの動きに傾いた。その後、イランが報復攻撃を行ったと伝わると、159.60台までドル高円安が進んだ。しかし、米国とイランが停戦の60日間延長で暫定合意したとの報道から一転してドル売りに傾き、159.10台まで軟化した。

【米雇用統計など雇用関連指標に注目】

5月25日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、1日に米5月製造業PMI確報値、米5月ISM製造業景況指数、米4月建設支出、2日に米4月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、3日に米5月ADP雇用統計、米4月製造業受注、米5月サービス業PMI確報値、米5月ISM非製造業景況指数、4日に米第1四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数、5日に日本4月勤労者世帯家計調査、日本4月景気動向指数速報値、米5月雇用統計などがある。

5日の米5月雇用統計を筆頭に、今週は注目度の高い指標の発表が相次ぐ。特に米雇用関連指標の発表が多く、イランでの紛争や原油価格の高止まりが続く中、米国の雇用情勢にどのような影響が出ているかが注目される。

主な経済指標の事前予想と前回は次の通り。1日の米5月ISM製造業景況指数が53.2（前回52.7）、2日の米4月雇用動態調査（JOLTS）求人件数が689.0万人（前回686.6万人）、3日の米5月ADP雇用統計が12.0万人増（前回10.9万人増）、米5月ISM非製造業景況指数が53.7（前回53.6）。そして5日の米5月雇用統計は、非農業部門雇用者数が9.3万人増（前回11.5万人増）、失業率が4.3%（前回4.3%）の見通しとなっている。

米国の経済指標は強弱入り混じっているものの、6月1日からの週に発表される米雇用統計をはじめとする一連の指標は、まずまず良好で米経済の堅調さを示すとみられる。その場合はドルにとってはプラス要因となりそうだ。

一方、米国とイランの戦闘終結へ向けた協議の行方も注目される。停戦の60日間延長で暫定合意したと報じられているものの、双方の主張には依然として隔たりがあり、和平が実現するまではまだ時間がかかるとみられる。

米国とイランの交渉の長期化は原油高やドル高につながりやすいとみられる。ドル円は159円台でやや足踏み状態となっているが、これは日本の政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感が上値を抑えているためだ。こうした中、ドル円は底堅さを維持しつつも、高値圏での神経質な展開が継続するとみられる。目先の予想レンジは154.00～160.50円。

【ユーロドルは堅調に推移か】

ユーロ圏では、1日に独5月製造業PMI確報値とユーロ圏5月製造業PMI確報値、2日にユーロ圏5月消費者物価指数速報値、4日にユーロ圏4月小売売上の発表がある。原油価格の上昇を受けてインフレへの警戒感が高まっており、なかでも2日のユーロ圏5月消費者物価指数速報値は特に注目される。前回（4月分）は前年比+3.0%となり、市場予想の+2.9%や前回（3月分）の+2.6%を上回った。こうした背景から、6月11日の欧州中央銀行（ECB）理事会では85%前後の確率で0.25%の利上げに動くと考えられている。また、年内2回程度の利上げが見込まれている。

ユーロドルはドルの堅調な流れを受けて、5月21日には1.1570台まで下落し

た。ただ、1. 16ドル割れの水準では底堅い動きとなり、安値圏から上昇に転じている。足元ではこれまで上値を抑えられていた5日移動平均線を上抜いており、ここからは堅調な推移が続くとみられる。目先の予想レンジは1. 1570～1. 1850ドル。

ポンドドルはスターマー首相への退陣要求など政治不安の高まりから、15日に1. 3310ドル近辺まで下落した。その後はもみ合いながらも戻り歩調で推移し、25日に1. 35ドル近辺まで上昇した。しかし、その後は21日移動平均線に上値を抑えられて伸び悩みを見せている。このため、目先は最近のレンジ内でのもみ合いが続くとみられる。目先の予想レンジは1. 3200～1. 3600ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、1日に中国5月レイティングドッグ製造業PMI、独5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月製造業PMI確報値、英5月製造業PMI確報値、ユーロ圏4月雇用統計、2日に豪第1四半期経常収支、豪4月住宅建設許可件数、ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、3日に豪第1四半期GDP、独5月サービス業PMI確報値、ユーロ圏5月サービス業PMI確報値、英5月サービス業PMI確報値、ユーロ圏4月生産者物価指数、4日に豪4月貿易収支、ユーロ圏4月小売売上高、5日にユーロ圏第1四半期GDPなどが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。